

伝説のバンドマンズイッパ

きやくほん・井上悠介

とうじょうじんぶつ

ケーシー／ギターリスト（しゅじんこう）

クリス／ボーカル

ステファニー／ドラム

マクドナルド／キーボード

だい二わ

かみてがわに ふとんや（カウンターとおくにほされているふとん）がある。

ナレ「ケーシーあらためアルバは、でんせつのドラマーをバンドメンバーに

かんゆうすべくゆうらくちょうにやってきた」

ぶたいじょうにアルバ。サス。カッコいいふくになっている。

アルバ「このあたりにでんせつのドラマーがいるときいたけど、どこだろう・・・」

かみてがわのしょうめいがつく。でんせつのドラマー・ステファニーとうじょう。

ステファニー「はーあ。じつかのかぎようをついだけどひまねー。それもこれもわたしの

おやがちゃんとききやくをつかんでないからだわ！」

アルバ「もしかしてあの人かな？ よし、きいてみよう」

アルバ「あー、すみません！」

ステファニー「あ、いらっしやーい！ ふとんをおさがしですか？ うちでは

うもうぶとんを手づくりしているため、さまざまサイズ、あつさにおつくりできますよー！」

アルバ「あ、すみません。ふとんは、さがしていないんです」

ステファニー「そうなの？ じゃあなに？ ひやかし？ それならこちらこそあなたなんてひつようじゃないわよ。かえったかえった！」

アルバ「あ・・・もしかしてあなたはでんせつのドラマー、ステファニーさんですか？」

ステファニー「ハギョ！ な・・・なぜわたしが、ドラムをやっていたことを。

だれからきいたの？」

アルバ「クリスからききました」

ステファニー「クリス・・・クリス・・・。ああ、かれね。よくライブハウスでいっしょになったわ。たしかにかれにはさいのうがあった。げんきになっているかしら」

アルバ「クリスはぼくとバンドをくむことになりました」

ステファニー「え!？ あ、そう。あなたと。それで？ そんなあなたがこんなふとんやになんのよう?」

アルバ「ステファニーさん。あなたに、ぼくのバンドにくわわってほしいんです」

ステファニー「・・・わたしに? ・・・そう。わたしにね」

アルバ「はい。あなたが、ぼくのつくりたいおんがくにはひつようふかけつなのです!」

ステファニー「・・・。ちよつと、むかしばなしをしてもいい?」

アルバ「むかしばなしですか!」

ステファニー「わたしはね。今までバンドを三かいくんで、かいさんしているの」

アルバ「三かいですか」

ステファニー「そう。なんでだか分かる?」

アルバ「いえ。けんとうもつきません」

ステファニー「そのバンドじゃ、わたしのめぎすおんがくにはとうていおよばなかったのよ」

アルバ「・・・といえますと」

ステファニー「およばなかったの。そのバンドじゃ、わたしのめぎすおんがくにはね」

アルバ「なるほど」

ステファニー「あつとうてきにぎじゅつがたりなかった。あとセンスね」

アルバ「それはそれは」

ステファニー「わたしはずつとりようしんに、30までにバンドで目が出なかったら

ふとんやをつげって言われてたの。で、もちろんそのバンドで目が出るはずもなくタイムオーバー。バンドはかいさん。わたしはしがないふとんやってわけ」

アルバ「もったいない。でんせつとよばれたあなたが! あなたはぜったいにおんがくのせかいにもどってくるべきです!」

ステファニー「そう言うのはかんたんなの。でも生きていくにはお金がひつようでしょ！？　ひとにさいのうがあるからやめるなっていうことはかんたんなの。そのことばがどれだけの人をくるしめているのかあなたはしってる！？」

アルバ「ぼくのギターをきいてください。ぼくのかなでるおんがくをきけばきつと心がかわるはずです」

キューインという音。アルバがギターでおんがくをかなでる。テクがすごい。

ステファニー「・・・。これは、もしかして、わたしがもとめていたさいのう！

からだだが、からだがかつてにうごき出す！　すごいでおまー！

すごいでおまー！」

リズムカルにふとんをたたいてしまうステファニー。二つの音が合わさり、一つのおんがくとなっていく。

あついパフォーマンスのなか、しょうめいのねつも心なしかおんがくが上がっているようにかんじる。

そのおんがくがおわったとき、二人の心がすでにつうじ合っていたことは言うまでもない。

アルバ・ステファニー「はあ・・・はあ・・・はあ・・・」

ステファニー「きみ、なまえなんて言うんだっけ？」

アルバ「ぼくですか？　ケ、アルバです」

ステファニー「そっか・・・。キアルバ。さそってくれてありがとう。

わたしのラストチャンス、あなたにかけてみても、よくってよ」

アルバ「あ！　ありがとうございます！」

ナレ「こうしてアルバは、ステファニーをバンドメンバーにくわえることにせいこうした。のちにこのであいが『ゆうらく町のきせき』とよばれ、ちまたをしんかんさせることになるとは、まだこのときの二人には、しるよしもないのであった」

ステファニー「あ、ちょっとまって」

アルバ「なんだいステファニー」

クリス「そのギターなんだけど、ちょっとこれをつけてみて」

アルバ「なんですか？ これ」

クリス「これをこうしてこうすると、ほら。こうなった」

アルバ「はい」

クリス「ここをこうすることで、ギターからかなでられる音がよりうつくしくなり、

くさきのそだちもよくなるわ」

アルバ「くさきのそだちもですか？」

クリス「ええ。おいしいミニトマトがなるようになるわよ」

アルバ「ありがとうございます！ すごい！ ギターがパワーアップしたぞ！」

かっこいいおんがくがながれる。あんてん。

だいニぶ・かん